



ゴールドラット博士の TOC (29) (中国語でのチェンジ・ザ・ルールの再読)

売上総利益ではないスループット・ダラーによる評価

5 月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 5 月 1 日(木)

TOC ではスループットという一般会計の売上総利益に当る用語を使う。

スループット (Throughput) とは、**単位時間当りに得られる真の利益、創出利益 (= 売上 - 完全変動費)** である。

売上高や売上総利益、粗利益ではなく、企業に実際に利益を提供するスループットをキャッシュベースの指標として扱う。

売上高や出荷件数を重要視する代わりに、**スループットの最大化**を目指すことで、**真の利益、創出利益 (= 売上高 - 完全変動費)**の多少を最重要視する。

売上高や売上件数を重視する代わりに、**スループット (創出利益) の最大化**を目指すことで、本当に利益につながる業務に集中できる。

こうすれば、営業活動や商品ラインナップを見直すときに**スループットの高い商品・顧客にリソースを集中させる戦略をとることが出来る。**

例えば、A 商品は粗利は高いが回転率は遅く、B 商品は粗利は低いがよく売れる。これらをスループット合計で比較することで、**どちらが本当に会社に貢献しているのかを判断することが出来るようになる。**

スループット (創出利益) は出荷ミスの場合にも効果的な管理ができる。

オーダーのミスで出荷をした、或いは出荷のタイミングが遅れた場合など、出荷の誤りや遅れがあった場合、**単にミスの回数など表面的な点を反省するのでは充分とは言えない。**

つまり、10 万円の商品の出荷ミスも 100 万円の商品の出荷ミスも回数だけで評価するのでは充分でない。

ミスの回数とスループットの額 (円、ドル) を乗じてスループット・ダラーで評価することが公平な評価となる。つまり、物理的な回数を金額的にも把握することで正しい比較ができる。

これはゴールドラット博士の工夫である。